

令和7年度 学校経営計画

1 学校教育目標

社会的・職業的自立を目指し、自他を尊重し協調しながら、自己実現と社会に貢献できる心身ともに健康な生徒を育成する。

＜校訓＞ 自立 挑戦 協調

2 学校の特徴

- ・ 本校は、軽度知的障害のある生徒を教育の対象とし、卒業後の一般企業等への就労など、社会的・職業的自立に向けた支援を重視する、高等部のみを置く特別支援学校である。
- ・ 学校の規模は、1学年当たり、3学級24名を定員とし、就労に必要な知識・技能・態度等の基礎を習得するための実習を行う生産・サービス科を設置している。

3 学校の現状と課題

昨年度、10期生12名が卒業し、これまでに171名の卒業生を社会に送り出した。10期生全員が希望する一般企業への就労を果たしている。今年度は16名が入学し、全校生徒は8学級55名となった。

今年度も引き続き「入学希望者を増やすための取組の充実を図ること」「企業就労を目指す環境を整え、就労生活を継続する力を高めること」「自己理解を深め自己管理意識を高めること」を使命として取り組んでいく。授業だけでなく、校外における体験等を通して生徒の自己理解力を高めるとともに、生徒一人一人が社会で自分らしく、得意とする能力を活かして生き生きと活躍できるよう、生徒の主体的な学びを支える有効な手段となるICTや外部の専門家を積極的に活用し質の高い教育の実践に取り組んでいく必要がある。また、情報発信や交流等を通して地域や保護者との連携をさらに深めることにより、より信頼される学校を目指すとともに、就労支援のセンター的機能を高められるよう、就労支援体制の強化を図っていくことが課題である。

(1) 就労できる力を育てる

- ・ 職業教育に重点を置いた教育活動の推進と一人一人の特性に応じた就労支援の充実。
- ・ 実習（作業学習）や就業体験の系統的な実施及び地域人材や事業所等と連携した専門的な指導（プロフェッショナル講座）の充実。
- ・ 就労に向けた積極的な職場開拓及び職場適応・定着のための職業選択支援の充実。

(2) 生活の質を高める力を育てる

- ・ 就労生活の継続に向けて自律し、規則正しい基本的生活習慣を定着させるための支援の充実。
- ・ 青年期にふさわしい情操を培い、自己理解を深める支援を充実させるとともに、社会人になることへの自覚と責任感を育み、良好な人間関係を保って主体的に心豊かな社会生活を送る力を養うための指導の充実。
- ・ 体力の向上及び自らの健康管理や健康的な生活を送ることができるための指導の充実。

(3) 地域社会に貢献する

- ・ 地域資源や人材の積極的活用、交流や地域での実習（作業学習）やボランティア活動などを通しての理解啓発及び社会貢献。
- ・ 県東部の高等学校における障害のある生徒の指導や就労に関する支援の推進。

(4) 安全・安心な教育環境を整備する

- ・ 安全教育の計画的・組織的な実施と事故防止対策の拡充。
- ・ 危機管理や防災意識を高めるための校内体制づくり。

(様式2)

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1 ①②③	目 標	・生徒が主体的・対話的に学習を進めることができるように、授業展開、ICTの効果的な利活用、支援方法等を工夫・改善し、より効果的な指導につなげる。
		計 画	・学校課題の研究を通して、 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組 を進める。 ・ICT機器の使いやすい環境を整え、各教科等で一人一台端末の活用場면을再考するなどしてICTの効果的な利活用を推進する。 ・教師のICT活用能力を高め、ICTの特性・強みを生かした生徒のより深い学びを促す方策について、外部講師による研修会を実施する。
		目 標	・卒業後の就労及び社会人としての社会生活を見据え、身に付けておくべき力を整理し、自己の課題を理解・克服し、成長を目指すために、必要に応じた支援内容の精選と充実を図る。
		計 画	・自己の課題を意識し、目標をもって作業学習に取り組み、さらに成長を視覚的に実感できるよう、「到達度チェック」の活用の仕組みを定着させる。 ・各作業班において各分野の専門家から学ぶ「プロフェッショナル講座」を実施し、技術の習得だけでなく、働く人の思いや姿勢に触れる機会をもつ。
2	学校生活	目 標	・卒業後、社会人としての自覚や責任感をもち、健全な自立生活を送るための基盤となる社会常識を身に付けることができるように、学校生活全体を通して社会生活のルールや情報モラルに関する学習の充実を図る。
		計 画	・学年や分掌、各教科等が連携し、社会規範や人との付き合い方、ICTの適切な活用等について学習できるようにし、計画的に外部講師等による講習会を実施する。 ・生徒集会等で、生徒同士が意見を出し合い、学校ネットルールについて考えたり、自分たちの行動について振り返ったりすることで、課題に向き合えるようにする。 ・情報モラル指導や正しく安全なICT利用に関する教職員研修を実施する。
		目 標	・将来の自立した生活のために生活習慣を考える機会を設定し、自己管理しようとする意識と態度を育て、基本的生活習慣の確立を図る。
		計 画	・生徒が生活習慣を振り返る期間を設定し、 自ら改善点を考え、自立した生活を送ることができるよう継続して健康チェックを実施 する。その結果を基に家庭での生活リズムや生活習慣について自己チェックし、家庭と連携して生活改善の見直しに活かす。 ・学年や各教科等と連携しながら実践を進めるとともに外部講師を活用する。
	目 標	・防災、防犯の訓練を通して、生徒が安全・安心に学校生活を送ることができるようにするとともに、危機管理マニュアルに基づき、学校の安全体制の充実を図る。	
	計 画	・関係機関の専門的な視点からの指導を生かし、学校の安全体制を充実させ、実際の学校生活における場面を想定した防災、防犯の訓練を実施する。 ・落ち着いて安全・迅速な緊急時対応ができるよう、緊急時の状況把握、安全な避難や対応方法を教職員間で共通理解し、HR等で生徒に意識付ける。	
	目 標	・一人一人のニーズに応じて、学校生活や家庭生活、社会生活に関する支援体制を整え、支援の充実を図る。	
	計 画	・行動観察や面談等による生徒の情報を教職員間で共有し、必要に応じてケース会議等を開き、支援体制を整備する。 ・適時に質の高い支援が行えるよう、家庭との連携を密にし、地域、関係機関等との連携・協力の充実を図る。	
3	進路支援	目 標	・生徒が主体的・意欲的に就業体験に取り組み、適切な進路選択につながるよう、事前・事後学習の充実を図る。
		計 画	・進路決定までの流れや巡回指導の在り方などについて進路研修会を行い、教職員間で共通理解を図り、学校全体で進路指導に当たる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の希望や特性等に合った進路選択ができるように進路指導委員会を計画的に実施し、ニーズや適性に合った進路指導となるよう検討する。 ・事前・事後学習の時間を年間行事予定に位置付け、各教科等と横断的に指導を進めるようにする。 ・VR教材の活用や体験先での打合せ等を通して、生徒が具体的なイメージをもって就業体験に臨めるようにする。 ・体験後、成果や課題等を生徒・保護者・全教職員で情報共有し、学校生活全般や家庭生活で生かすことができるようにする。
		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者の就労に向けての理解を促進するために、情報提供の場の設定や情報の発信を行い、就労への意識啓発を図る。
		<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりやPTA進路学習会等で、障害者雇用率や最低賃金をはじめとする障害者雇用の現状や社会的・職業的自立に必要な情報を生徒・保護者に提供する。 ・就業体験報告会や卒業生の話を聴く「先輩に学ぶ学習会」など、進路支援に関する行事への保護者の積極的な参加を促し、生徒と情報を共有できるようにする。
		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業向けオープンスクールを実施し、好事例となる取組等の研修を通して、企業への一般就労を目指す生徒の特性の理解を促進し、就業体験の受け入れや雇用促進を図る。
		<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校就労応援団とやま登録企業等に対し、企業向けオープンスクールを実施し、企業担当者への本校の作業学習や教科学習の公開、企業間の情報交換及び好事例の発表を通して、本校の取組の理解促進や就労支援体制の充実を図る。
4	特別活動	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身がよりよい学校づくりや地域交流について考え、実践することで集団や社会の一員としての意識と自信を高め、主体的に社会参加、社会貢献する態度を育む。
		<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを生徒主体で推進できるような環境づくりに努め、生徒会活動や学校行事、地域行事等において生徒が主体的に、または仲間と共同して実践しようとする態度が育つようにする。 ・地域行事への参加や地域の方々と触れ合う機会等を通して地域交流を深め、生徒が積極的に社会参加、貢献する態度を育む。 ・学校行事等の情報を発信するとともに、地域との交流の機会を設け、積極的に地域に開かれた学校としての推進を図る。
5	その他 (教育相談)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生自身が適切な進路選択を行えるよう、中学校等の生徒や保護者、教員に情報提供を行い、理解啓発及び教育相談の充実を図る。
		<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生やその保護者のインタビューを公開するなど、本校で学ぶ意義や成果をより具体的に伝えるように工夫し、県東部の中学校訪問やHP等を通して理解啓発を図る。 ・対象者のニーズに合うようにオープンスクール等の内容を工夫する。 ・学校見学会等で個別相談を実施したり、随時、相談や体験を受け入れたりし適切な学びの場の選択につなげることができるよう情報提供をする。
		<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部の高等学校における障害のある生徒の指導や就労に関する相談・支援を行い、就労支援のセンター校としての機能を高める。
		<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県東部の高等学校の教職員向けの学校見学会を実施し、高等学校に在籍する障害のある生徒の指導や就労に関する情報提供を行うとともに、高等学校の現状や困難を聞き取ることで状況を把握し、よりよい支援につなげるようにする。
	その他 (PTA活動)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTAと生徒が学校や家庭生活における様々な課題や困難について共に考える場をもち、互いに理解を深めることで、生徒・保護者・学校がチームとなり、よりよい学校・家庭生活を送れるようにする。
		<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA役員と生徒との懇談会を開催し、学校での取組を知ったり、諸問題について意見交換を行ったりする機会をもち、生徒・保護者・学校のよりよい関係づくりを図る。 ・懇談会の内容について、HPやPTAだよりで全保護者に発信する。

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

令和7年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —1—	
重点項目	学習活動
重点課題	主体的・対話的で深い学びの視点での作業学習における授業改善
現 状	<ul style="list-style-type: none">・学習指導要領には、求められる資質・能力の育成を目指して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることが示されている。本校ではこれまで、各教科等においてICT機器を活用して生徒が主体となって学ぶ授業の在り方について研修し、改善を行ってきた。しかし、教師主導により授業が展開される場面が多いことや、自己の考えを形成するための対話の場面設定が不十分である等、今後も改善を進めていく必要がある。・作業学習では、学習計画（運営や学習指導・支援、引継ぎ等）や教員の専門性の関係で、授業担当者は固定されることが多い。そのため、他の作業班の授業の様子を見る機会が少なく、所属以外の作業班での学習の進め方や工夫点について知らない教職員も少なくない。生徒の作業面での実態や、どの班にも共通する態度面等の事項がどのように指導されているかを把握する上で、所属以外の作業班についても知っている必要がある。・作業学習で取り扱う学習内容や、アビリンピックの各競技に関する技能について、作業学習の授業担当者に求められる専門性が高い。教職員自身が外部の専門家から学び、専門性を身に付けることで、より効果的に授業を展開できると考える。
達成目標	各作業班における授業改善 <ul style="list-style-type: none">・授業改善についての検討会の実施 各作業班 年4回以上・授業改善シートの作成 各作業班 年2枚以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・作業学習の互見授業を実施し、所属以外の作業班での学習の進め方や工夫点を知る。・互見授業等で学んだことを各班で共有し、それを活かして各作業班で検討し、授業改善を行う。・専門家による「プロフェッショナル講座」を計画的に実施し、教員自身も研鑽することで作業学習における指導力をより高め、学んだことを参考にして授業改善を行う。・作業学習においても主体的に取り組めるよう、生徒が「目指せ！ワンダフル☆School」プロジェクトを推進できるように、振り返り等から生徒の気付きを引き出すように工夫する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和7年度 富山県立富山高等支援学校アクションプラン —2—			
重点項目	学校生活		
重点課題	基本的な生活習慣の定着と健康に対する自己管理能力の向上		
現 状	<ul style="list-style-type: none">・健康に対する自己管理が不十分で、体調の変化に気付いても適切な対応ができず、体調を崩す生徒が多い。また、食事の内容や運動不足への意識も低く、健康的な生活を意識して行動に移すことがなかなかできていない。・人間関係の悩みや SNS 上でのトラブルに心を悩ませる生徒も見られ、精神的なストレスが生活や体調に影響を与えるケースも少なくない。・将来、社会的・職業的に自立していくため、自分の心と体の状態に目を向け、必要に応じて周囲に相談したり、自分なりの対処法を身に付けたりすること、日々の生活を見直し安定した生活習慣と健康を維持する力、そして心身をバランスよく保つ自己管理能力を身に付けていくことが大切と考える。・健康的な生活習慣を身に付けるには、生活の基盤である家庭の理解や協力が必要である。サポートが不足していると、生活リズムや健康管理に影響が出るため、学校と家庭が連携して同じ方向に向かって支援することで一人一人の意識がより深まり、基本的な生活習慣の定着・改善につながっていくと考えられる。		
達成目標	<table border="1"><tr><td>① 健康チェックシートを活用した健康課題の気付きと生活習慣の改善 <ul style="list-style-type: none">・健康チェックシートの実施 年3回・年度末自己評価アンケート結果より基本的な生活習慣が身に付いたと回答した生徒の割合 70%以上</td><td>② 家庭と連携した生活習慣の改善 <ul style="list-style-type: none">・保健だより等で定期的な発信、アンケートの実施 年2回・保護者との合同懇談会の実施 年2回</td></tr></table>	① 健康チェックシートを活用した健康課題の気付きと生活習慣の改善 <ul style="list-style-type: none">・健康チェックシートの実施 年3回・年度末自己評価アンケート結果より基本的な生活習慣が身に付いたと回答した生徒の割合 70%以上	② 家庭と連携した生活習慣の改善 <ul style="list-style-type: none">・保健だより等で定期的な発信、アンケートの実施 年2回・保護者との合同懇談会の実施 年2回
① 健康チェックシートを活用した健康課題の気付きと生活習慣の改善 <ul style="list-style-type: none">・健康チェックシートの実施 年3回・年度末自己評価アンケート結果より基本的な生活習慣が身に付いたと回答した生徒の割合 70%以上	② 家庭と連携した生活習慣の改善 <ul style="list-style-type: none">・保健だより等で定期的な発信、アンケートの実施 年2回・保護者との合同懇談会の実施 年2回		
方 策	<ul style="list-style-type: none">・「健康チェックシート」を実施し、生徒個人及び本校の健康課題を把握する。・保健指導、自己チェック週間を通年で実施し、基本的な生活習慣の定着を図る。・健康課題に応じ外部講師を活用する。・家庭との連携を深めるため、定期的に健康や生活習慣に関する情報を保護者と共有し、保護者との合同懇談会を実施して、個別の状況に応じた支援方法を話し合う場を設ける。		

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)